

第7回 大分銀行 会社説明会

平成23年5月26日



地域をみつめ 未来をみつめ

大分銀行

I . プロフィール・大分県の概況	2
II . 平成23年3月期決算の状況	5
III . 「中期経営計画2011」について	19
IV . リスク・収益管理の状況	26

I. プロフィール・大分県の概況

1. 本店：大分市府内町3丁目4番1号

2. 創立：明治26年2月1日

3. 資本金：195億98百万円

4. 従業員数：1, 628名 (嘱託・出向含む：1,846名)

5. 店舗数：103力店

6. 預金等残高：2兆4, 918億円

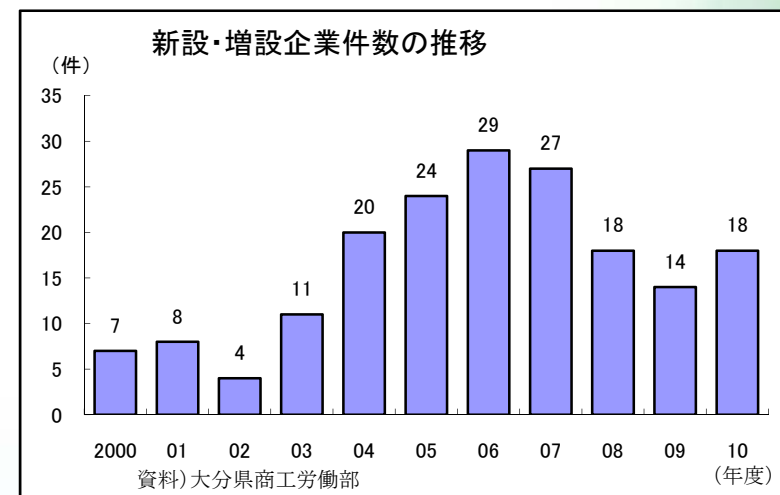
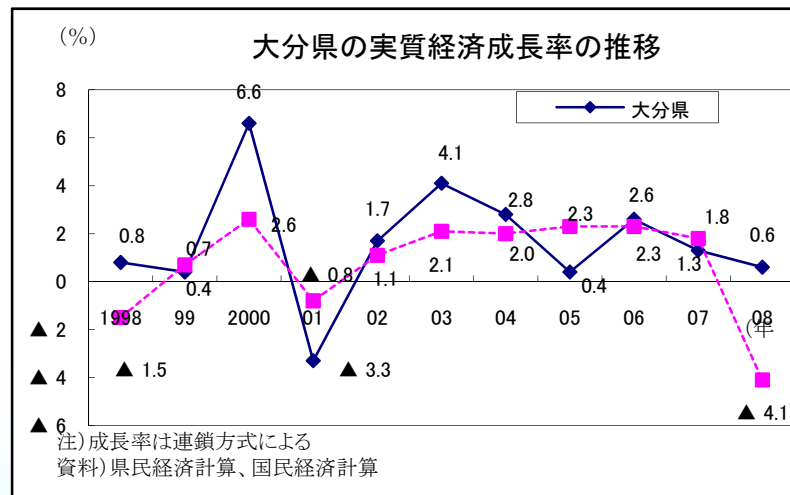
7. 貸出金残高：1兆6, 863億円

大分県の概況

大分県の主な指標

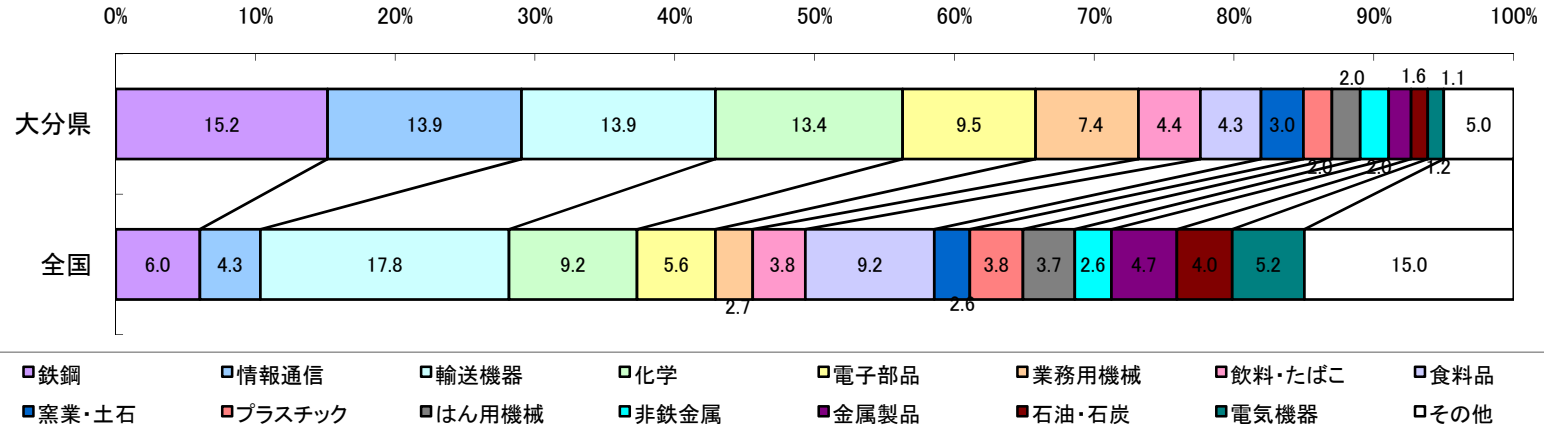
	(単位)	大分県	全国 順位	全国 シェア	九州 順位	九州 シェア	年次
総面積	(km ²)	6,340	22	1.7	4	15.0	2010年
人口	(人)	1,196,409	33	0.9	5	9.1	2011年
県内総生産	(億円)	44,724	31	0.9	4	10.1	2008年度
民営事業所数	(所)	57,835	35	1.0	5	9.4	2009年
民営従業者数	(人)	509,780	34	0.9	5	9.2	2009年
農業産出額	(億円)	1,313	23	1.6	6	8.1	2009年
製造品出荷額等	(百万円)	3,084,425	25	1.2	2	15.9	2008年
卸売業年間商品販売額	(百万円)	1,347,606	36	0.3	6	5.0	2007年
小売業年間商品販売額	(百万円)	1,209,421	34	0.9	5	9.1	2007年
一人当たり県民所得	(千円)	2,562	29	-	2	-	2008年度

資料) 国土地理院ホームページ、住民基本台帳、経済センサス、県民経済計算、国民経済計算年報、農林水産統計、
大分県の工業、工業統計表、商業統計表



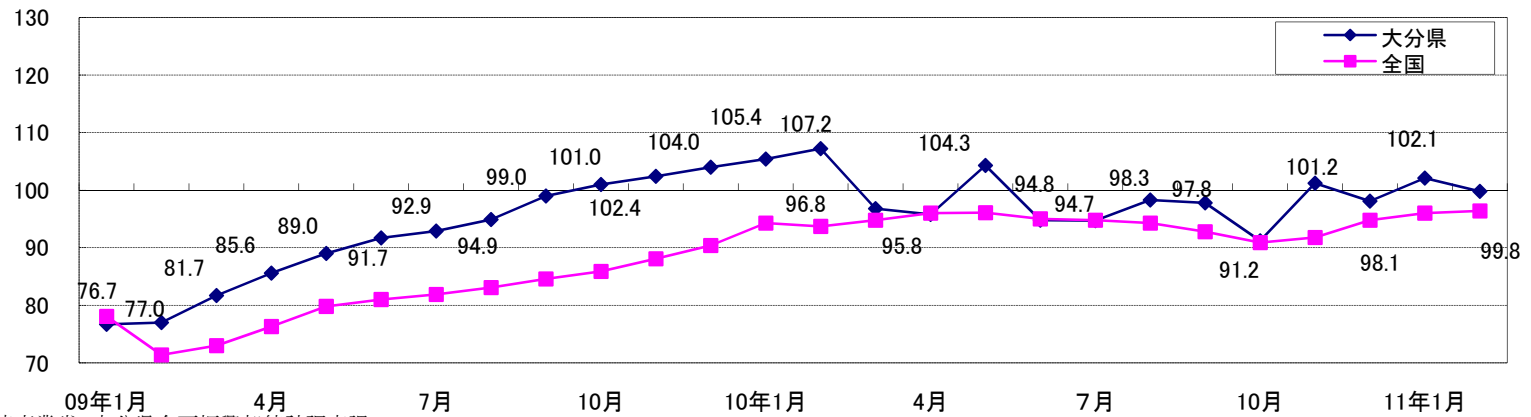
大分県の概況

製造品出荷額等の構成比(2009年)



資料) 大分県工業統計調査、工業統計調査

鉱工業生産指数の推移(2005年=100、季節調整値)



資料) 経済産業省、大分県企画振興部統計調査課

Ⅱ.平成23年3月期決算の状況

1	平成23年3月期損益概況(単体)	6	11	今期(H24年3月期)の業績予想	16
2	資金利益、利回り・利鞘の状況	7	12	業績予想の前提	17
3	貸金・預金の状況	8	13	新中計(H20.4～H23.3)の振返り	18
4	有価証券の状況	9			
5	役務取引等利益の状況	10			
6	経費の状況	11			
7	与信費用の状況	12			
8	不良債権の状況(金融再生法基準)	13			
9	自己資本の状況	14			
10	大分県内預貸金シェア	15			



1.平成23年3月期損益概況(単体)

(単位:億円)

	22年3月期	23年3月期	増減
コア業務粗利益	422	420	▲2
業務粗利益	419	420	+1
資金利益	367	366	▲1
役務取引等利益	53	53	0
その他業務利益	▲1	1	+2
経費	286	293	+7
コア業務純益	136	127	▲9
一般貸倒引当金繰入額①	▲22	0	+22
業務純益	156	127	▲29
臨時収支	▲66	▲23	43
不良債権処理費用②	53	1	▲52
経常利益	90	104	+14
貸倒引当金戻入益③	0	10	10
税引前当期純利益	81	111	+30
当期純利益	48	56	+8
(信用コスト①+②+③)	31	▲9	▲40

コア業務粗利益:前年度比▲2億円

コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券損益

業務粗利益:前年度比+1億円

資金利益は減少したが国債等債券損益により前年比+1億円。

<主な資金利益の増減要因>

貸出金利息 ▲13 有価証券利息 ▲2
預金等利息 +14

コア業務純益:前年度▲9億円

コア業務粗利益は減少と、経費の増加(人件費)により前年比▲9億円となった。

業務純益:前年度比▲29億円

業務純益＝コア業務純益＋国債等債券損益－一般貸倒引当金繰入①

臨時収支:前年度比+43億円

不良債権処理費用の大幅な減少により臨時収支は43億円増加

信用コスト:前年度比▲40億円

一般貸倒引当金繰入額と不良債権処理費用の合計がマイナスであるため、特別損益に計上

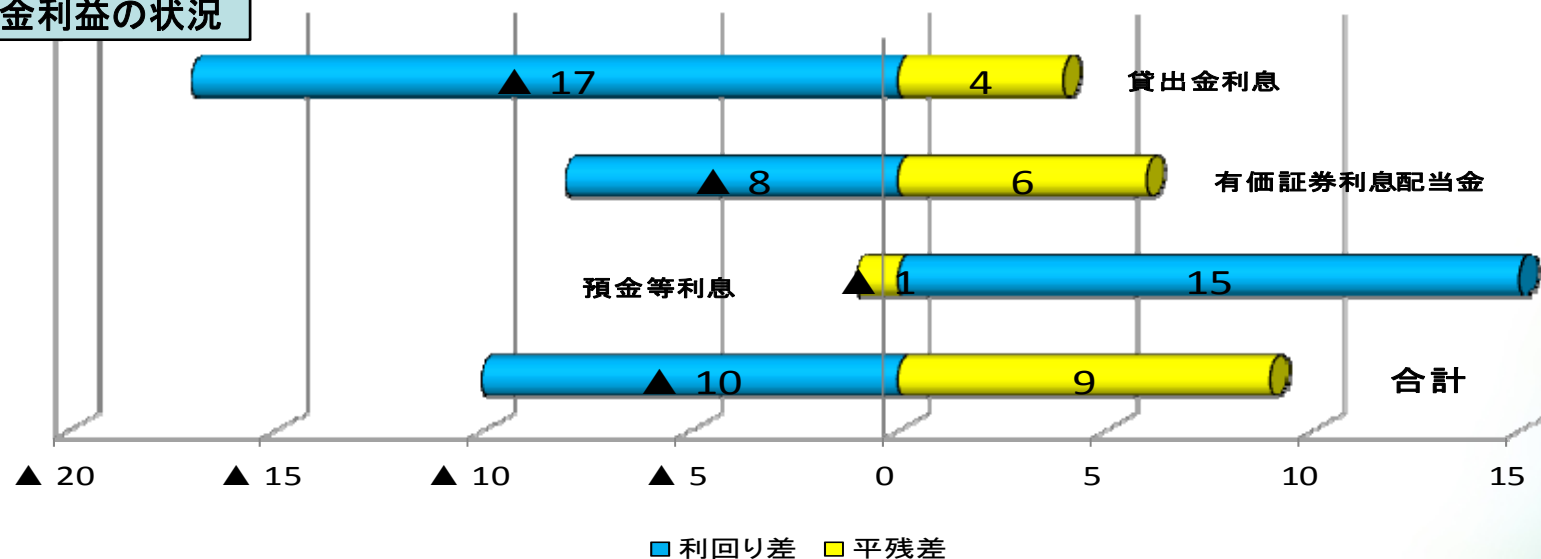
当期純利益:前年度比+8億円

経常利益の増加に伴い当期純利益も増加

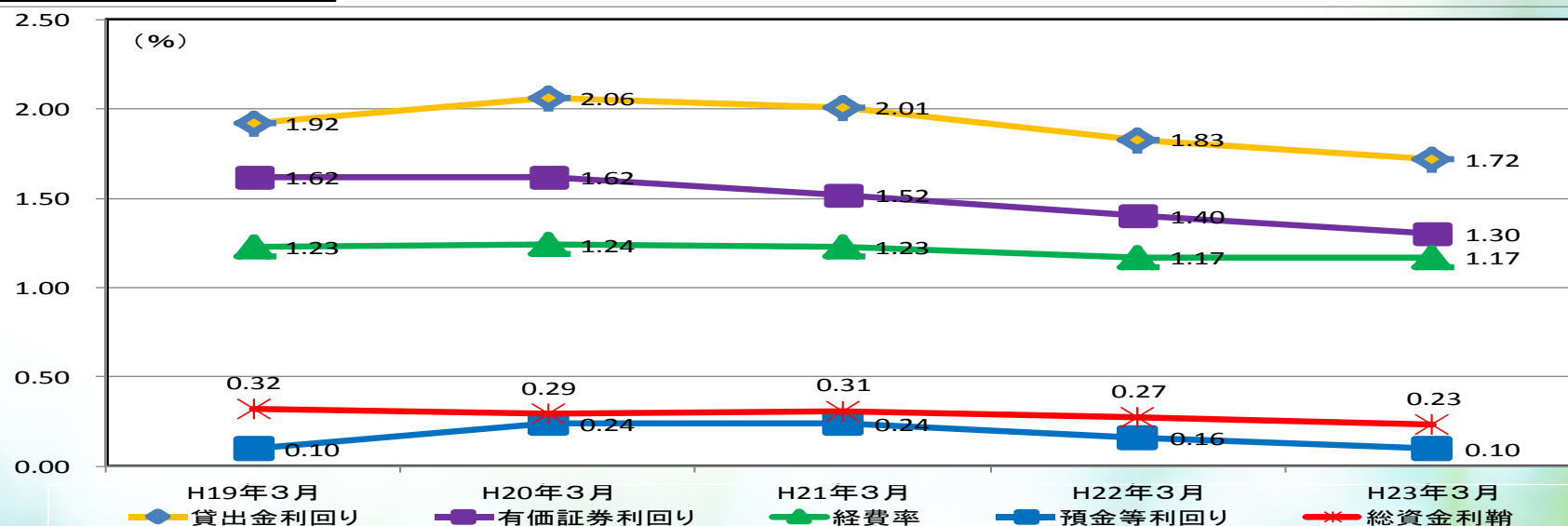
2. 資金利益、利回り・利鞘の状況

(億円)

資金利益の状況

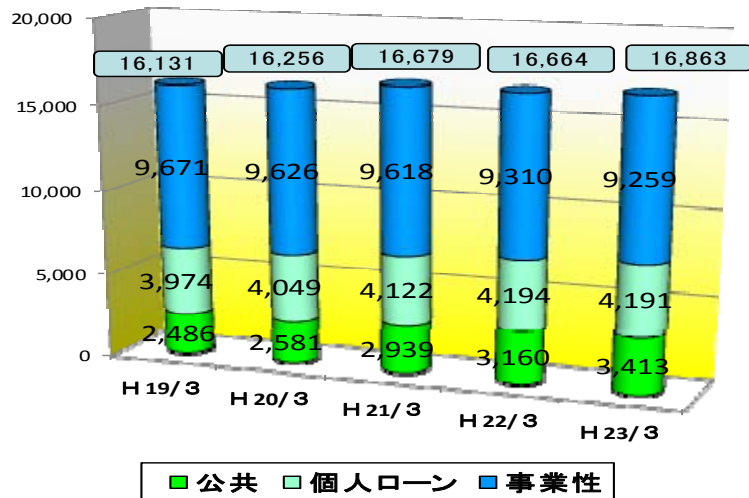


利回り・利鞘の状況

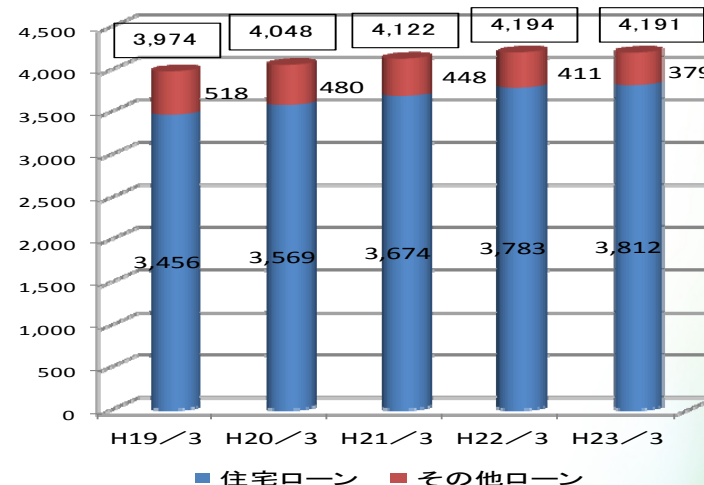


3. 貸出金・預金の状況

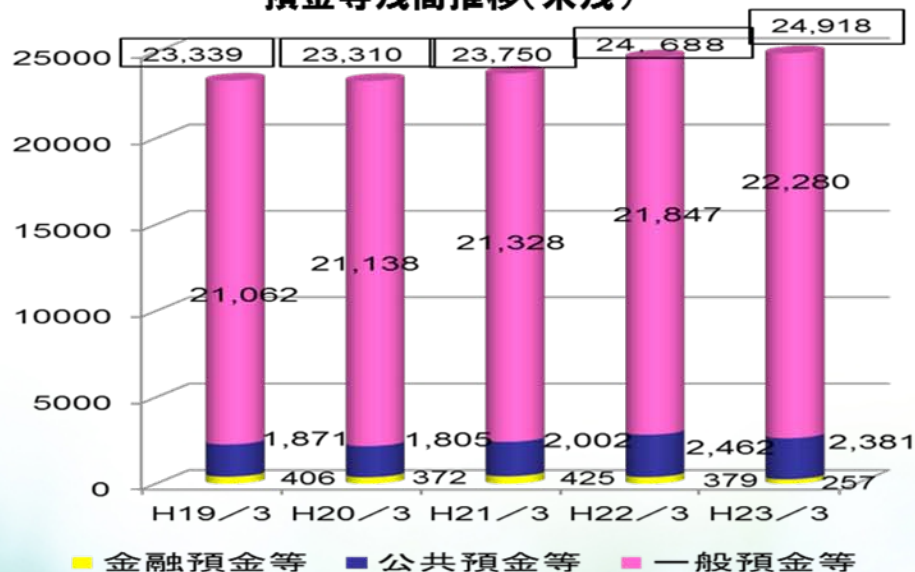
総貸出金末残推移 (億円)



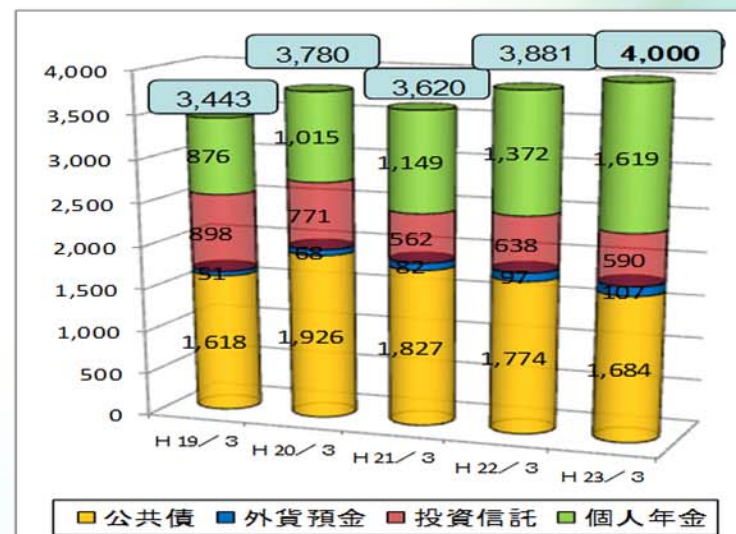
個人ローン残高推移 (億円)



預金等残高推移(末残) (億円)

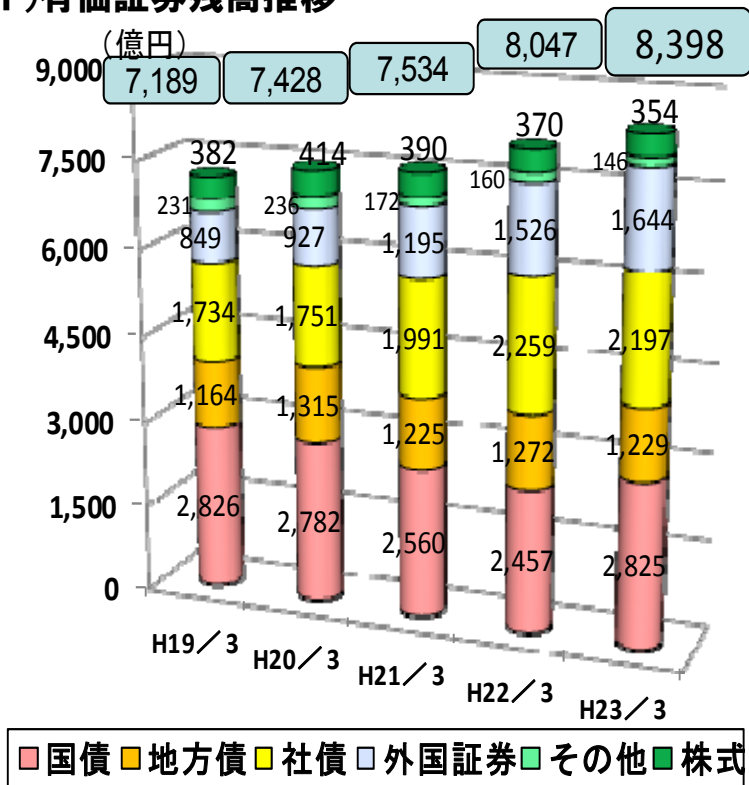


預り資産残高



4. 有価証券の状況

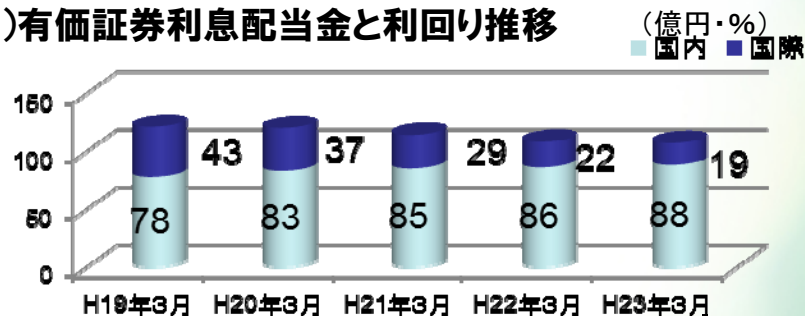
(1) 有価証券残高推移



(2) 円貨債券デュレーションの推移

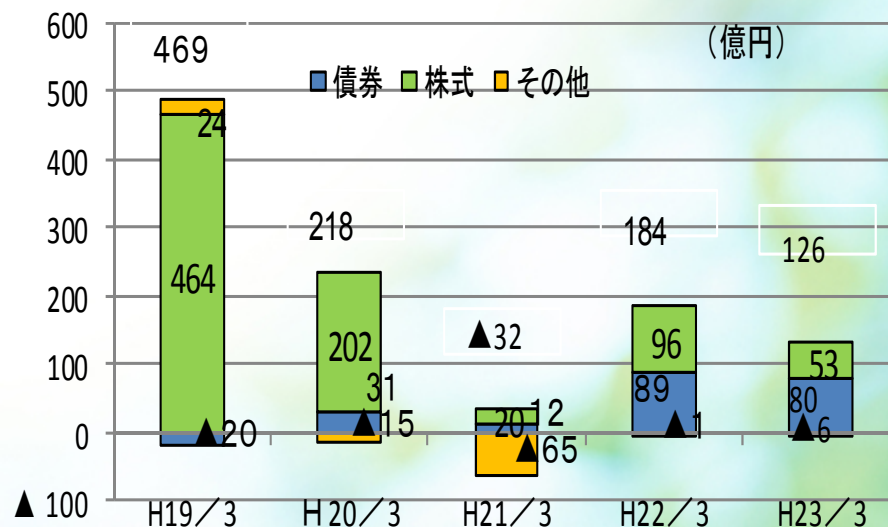
	19年3月	20年3月	21年3月	22年3月	23年3月
修正デュレーション	2.90年	2.73年	2.50年	2.65年	3.03年

(3) 有価証券利息配当金と利回り推移



国内利回	1. 20	1. 25	1. 25	1. 22	1. 18
国際利回	4. 57	4. 63	4. 02	3. 13	2. 35
全体利回	1. 62	1. 62	1. 52	1. 40	1. 30

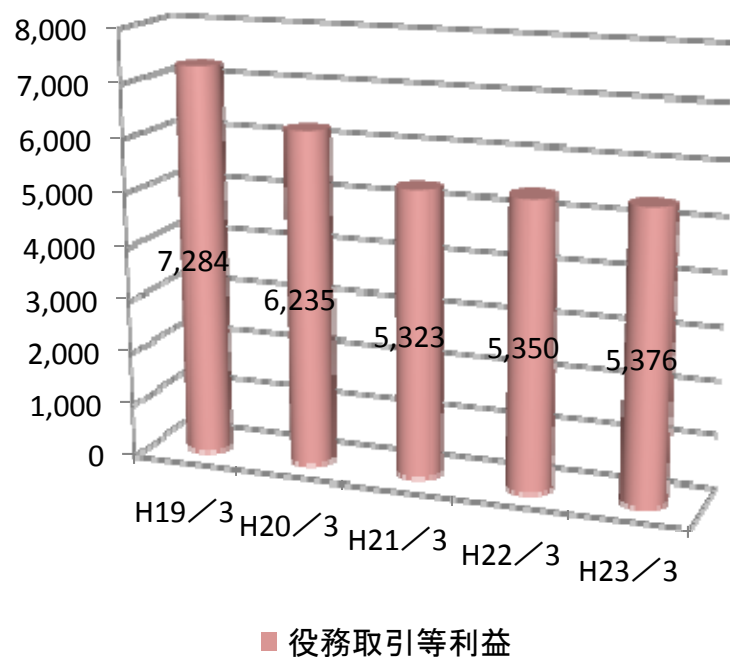
(4) 有価証券評価損益推移



5. 役務取引等利益の状況

役務取引等利益の推移

(百万円)

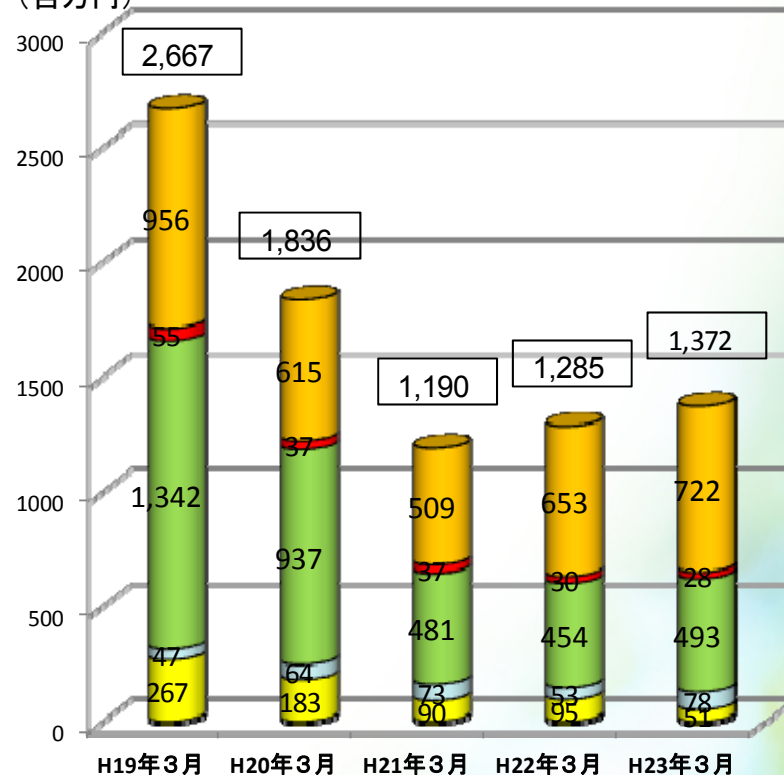


業務粗利益に占める役務取引等利益

19年3月	20年3月	21年3月	22年3月	23年3月
17.0%	14.8%	13.1%	12.8%	12.8%

預り資産手数料推移表

(百万円)

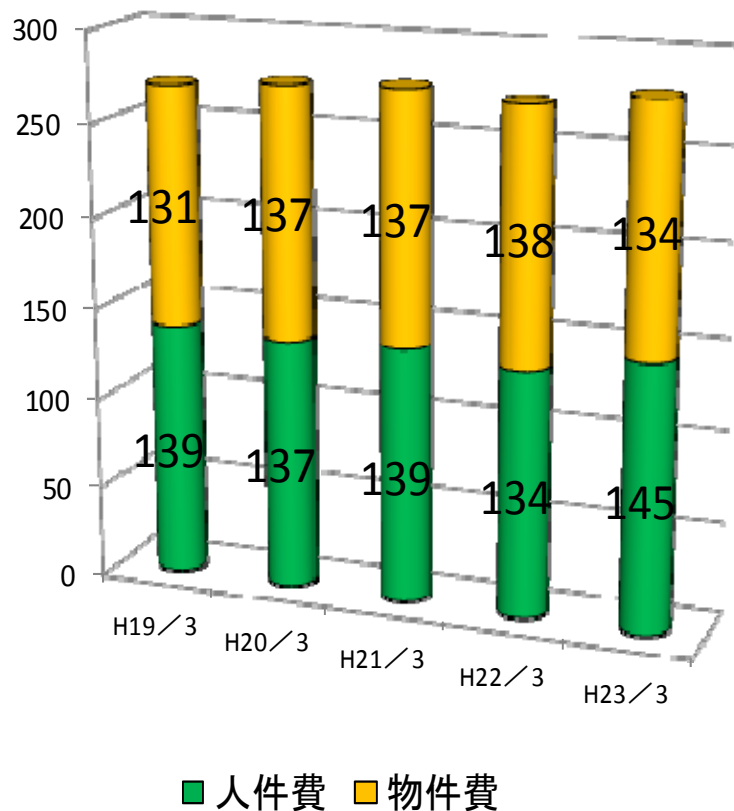


■ 公共債 ■ 一般外貨 ■ 投信 ■ 損保 ■ 生保

6. 経費の状況

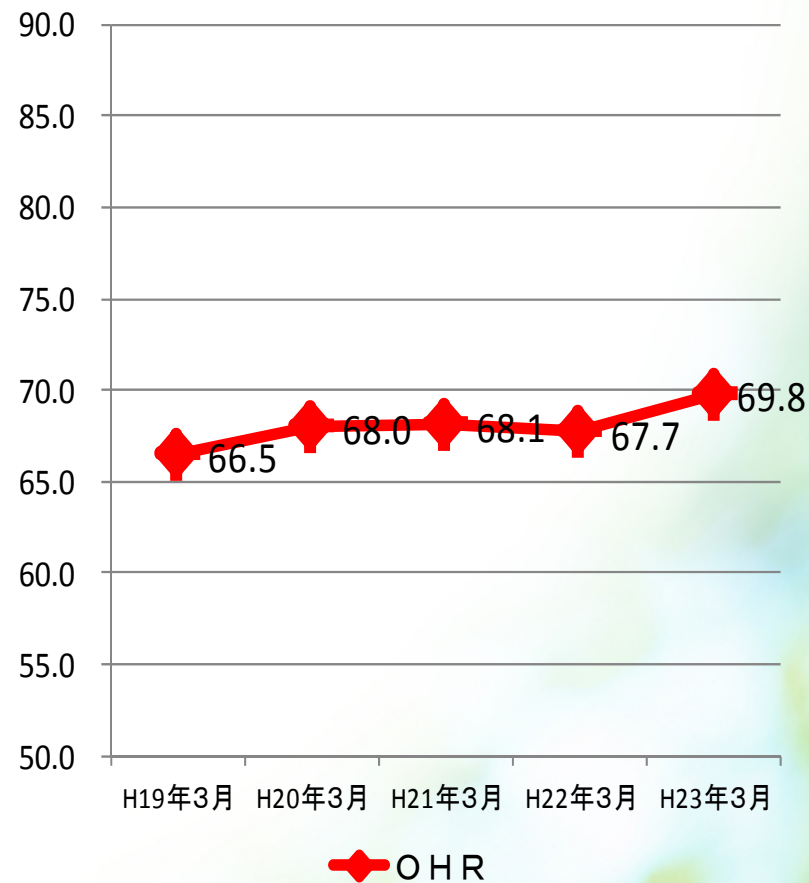
(億円)

人件費・物件費の推移



(%)

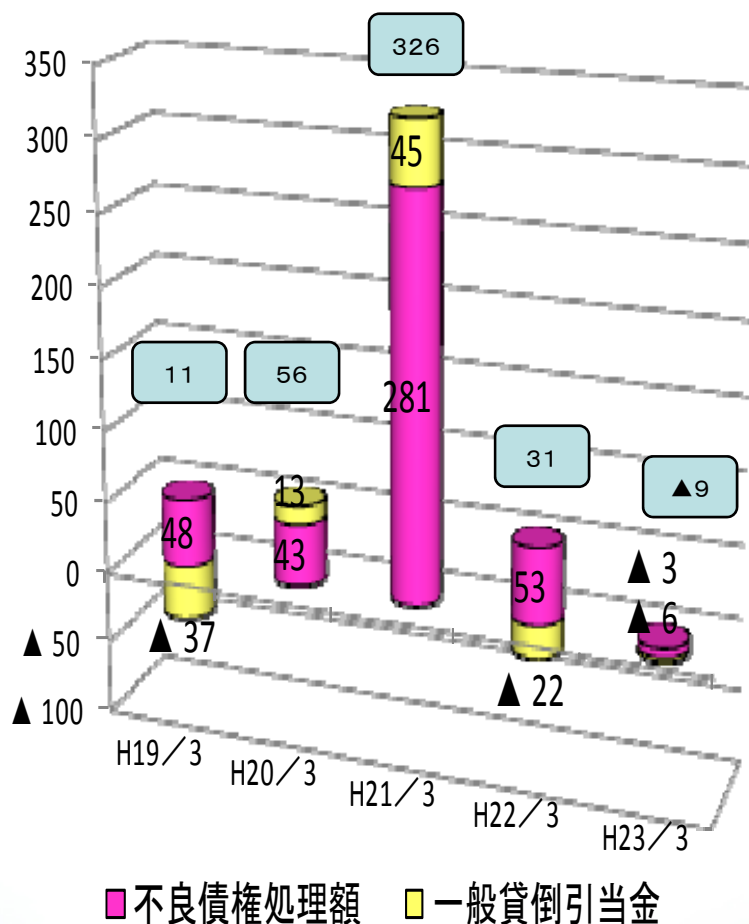
OHR推移



7. 与信費用の状況

(億円)

与信費用の推移



＜与信費用率推移表＞

(単位: %、億円)

	19年3月	20年3月	21年3月	22年3月	23年3月
与信費用率	0.07	0.36	1.99	0.19	▲0.05
与信費用	11	57	326	31	▲9
貸出金平残	15,856	15,965	16,379	16,637	16,893

＜不良債権処理内訳推移一覧表＞

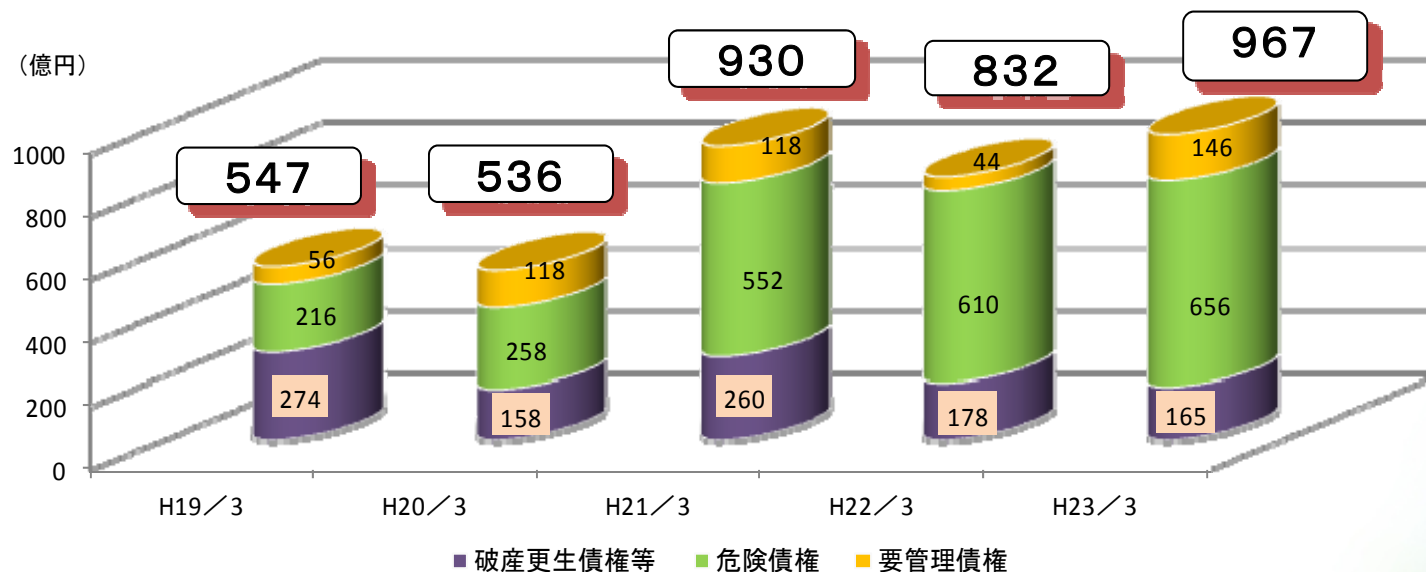
(億円)

	19年3月	20年3月	21年3月	22年3月	23年3月
貸出金償却	—	—	0	0	0
個別貸倒引当金繰入	48	42	278	54	▲7
延滞債権等売却損	0	0	0	0	0
その他	0	1	2	▲1	1
合 計	48	43	281	53	▲6

注) 与信費用率 = (一般貸倒引当金額 + 不良債権処理額) ÷ 貸出金平均残高

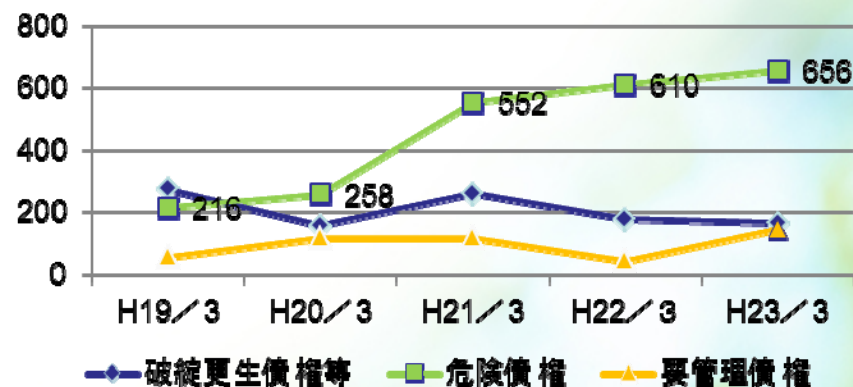
不良債権処理額 = 貸出金償却 + 個別貸倒引当金繰入額 + 延滞債権等売却損 + その他

8. 不良債権の状況(金融再生法基準)



(%)

不良債権比率の推移				
19/3	20/3	21/3	22/3	23/3
3.30	3.21	5.43	4.88	5.60



注1) 不良債権総額＝破産更生債権及びこれらに準ずる債権＋危険債権＋要管理債権

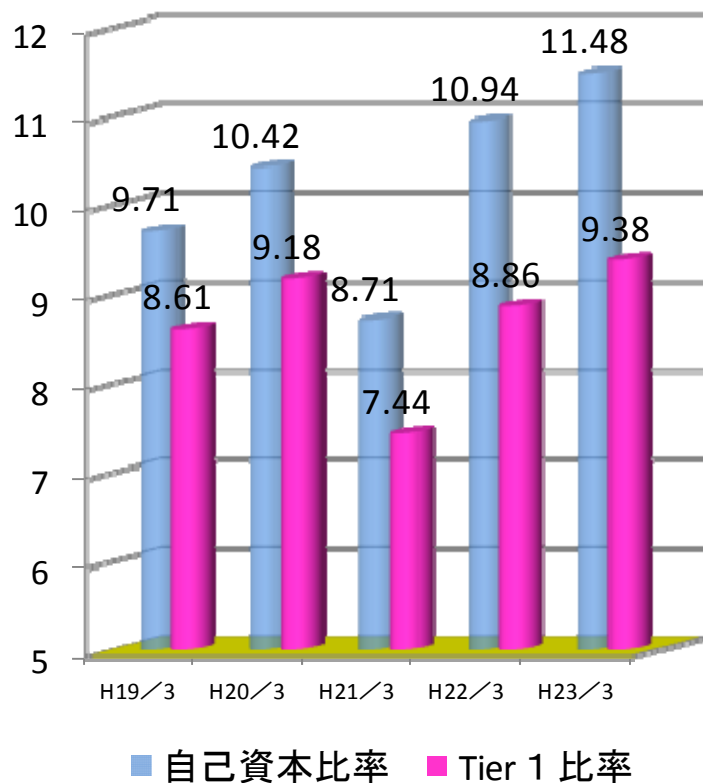
注2) 不良債権比率＝総与信に占める不良債権総額の割合

注3) 総与信＝貸出金＋支払承諾見返＋外国為替＋貸付有価証券＋仮払金＋未収利息

9. 自己資本の状況

(%)

自己資本比率・Tier1比率の推移



* 連結自己資本比率

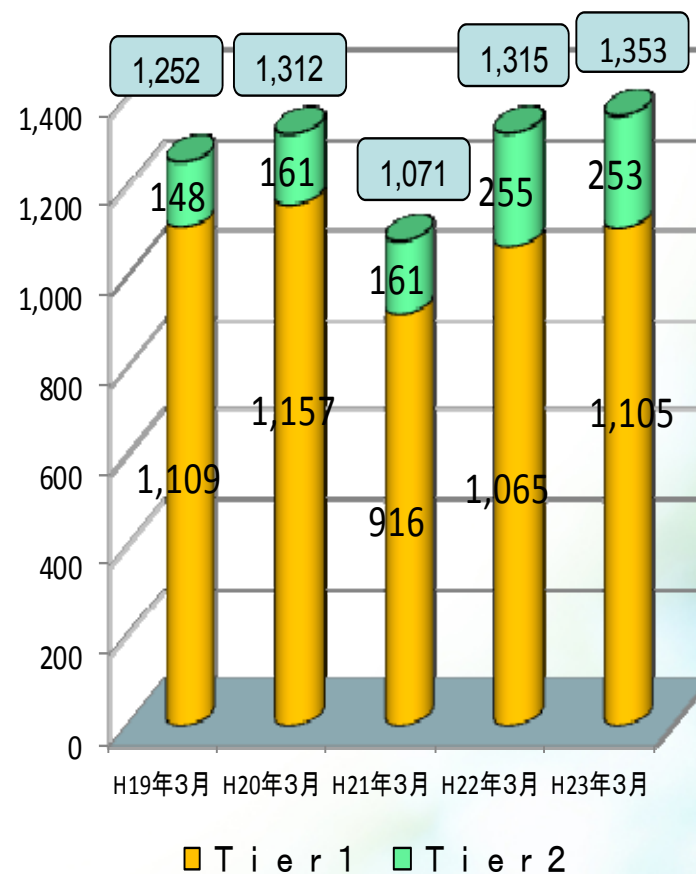
H22/3 : 11.49% ⇒ H23/3 : 12.15%

* 連結Tier1比率

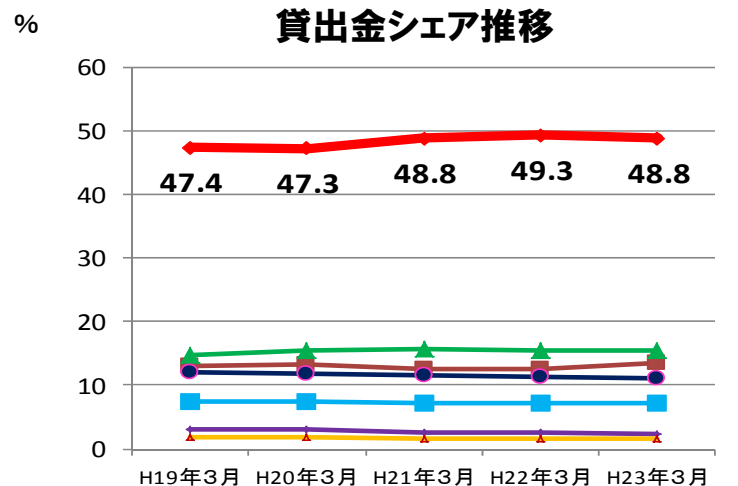
H22/3 : 9.53% ⇒ H23/3 : 10.15%

(億円)

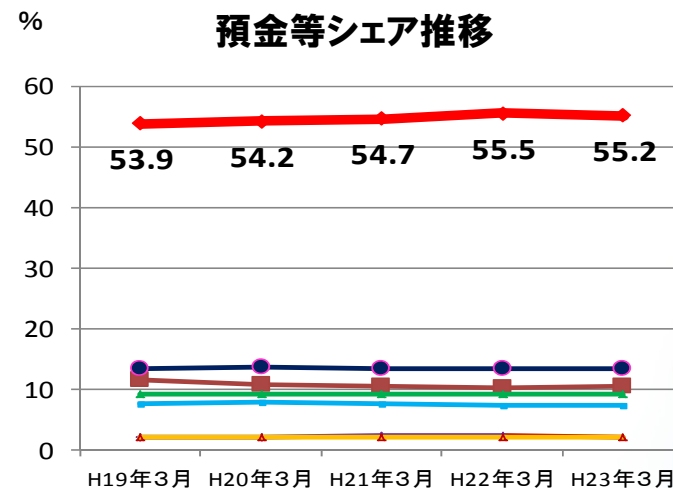
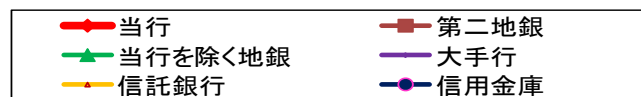
自己資本額の推移



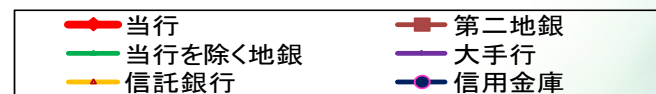
10. 大分県内預貸金シェア



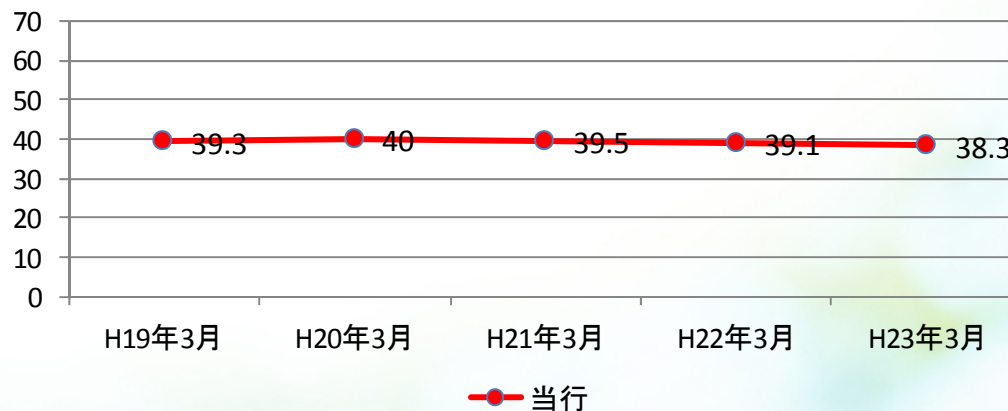
(* 政府系金融機関を除く)



(* 郵貯を除く)



県内事業性シェア推移(推定値)



11. 今期(平成24年3月期)の業績予想

	23年3月期	24年3月期 (予想)	増減
コア業務粗利益	420	396	▲24
業務粗利益	420	392	▲28
資金利益	366	350	▲16
役務等利益	53	50	▲3
その他業務利益	1	▲8	▲9
(うち国債等債券損益)	0	▲4	▲4
経費	293	309	16
コア業務純益	127	87	▲40
一般貸倒引当金繰入額①	0	0	0
業務純益	127	83	▲44
臨時収支	▲23	▲21	1
不良債権処理費用②	1	15	15
株式等関係損益	▲11	▲1	10
その他臨時収支	▲11	▲5	6
経常利益	104	61	▲43
特別損益	7	▲1	▲8
貸倒引当金戻入益③	10	0	▲10
税引前当期純利益	111	60	▲51
当期純利益	56	40	▲16
(信用コスト①+②+③)	▲9	15	24

(単位:億円)

コア業務粗利益:前年度比▲24億円

コア業務粗利益=業務粗利益-国債等債券損益

業務粗利益:前年度比▲28億円

貸出金利息の減少は今年度も続くことが予想され、資金利益16億円、役務等利益は3億円の減少を見込む。その他業務利益も減少することから、業務粗利益は前期比▲28億円を見込む。

コア業務純益:前年度比▲40億円

コア業務粗利益の低下をカバーできずコア業務純益は40億円減少。

業務純益:前年度比▲44億円

業務純益=コア業務純益+国債等債券損益+一般貸倒引当金繰入①

信用コスト:前年度比+24億円

一般貸倒引当率が低下傾向で上期5億、下期10億円を見込む。
東日本大震災は現時点で大きな影響を与えるものはない。調査継続し対応予定。

当期純利益:前年度比▲16億円

業務粗利益の減少により、当期純利益は前期比▲16億円を見込む。地域密着型金融の実践により今後積み上げを図る。

12. 業績予想の前提

1. 平残予想

(億円)

	平成24年3月期		
	上期	下期	通期
貸出金平残	16,430	16,368	16,399
有価証券平残	8,870	9,217	9,044
預金等平残	25,255	25,032	25,144

2. 運用利回り

(%)

	平成24年3月期		
	上期	下期	通期
貸出金利回り	1.63	1.63	1.63
有価証券利回り	1.24	1.19	1.21

3. 調達利回り

(%)

	平成24年3月期		
	上期	下期	通期
預金等利回り	0.08	0.08	0.08

4. 利鞘

(%)

	平成24年3月期		
	上期	下期	通期
預貸金利鞘	0.32	0.32	0.32
総資金利鞘	0.11	0.11	0.11

5. 条件

- (1) 貸出金については、収益性の低い大都市圏での貸出の見直し及び入れ替えを行う。
- (2) 日銀の政策金利については、変動がないものとしている。
- (3) 預金等の利率、短期プライムレートについては、変動しないこととしている。

13.新中計(H20.4~H23.3)の振返り

基本テーマ

『明るく、力強く、誠実な銀行へ再挑戦』

基本方針

- (1) 内部管理態勢の強化
- (2) 営業力の強化
- (3) 資産内容の健全性向上
- (4) 人財力の強化
- (5) 持続的成長基盤の強化

目標とする経営指標

項目	単位	計画	実績	対比	達成
コア業務純益	億円	114	126	+12億円	○
当期純利益	億円	26	56	+30億円	○
ROE	%	2.75	5.20	+2.45	○
OHR	%	72.2	69.8	▲2.4	○
自己資本比率	%	9.0	11.48	+2.48	○

Ⅲ.「中期経営計画2011」について

変革への挑戦 ～大分銀行はお客さまとの絆を強めます～

平成23年4月1日 ～ 平成26年3月31日（3年間）

1 「中期経営計画2011」の概要

2 重点課題と取組み項目

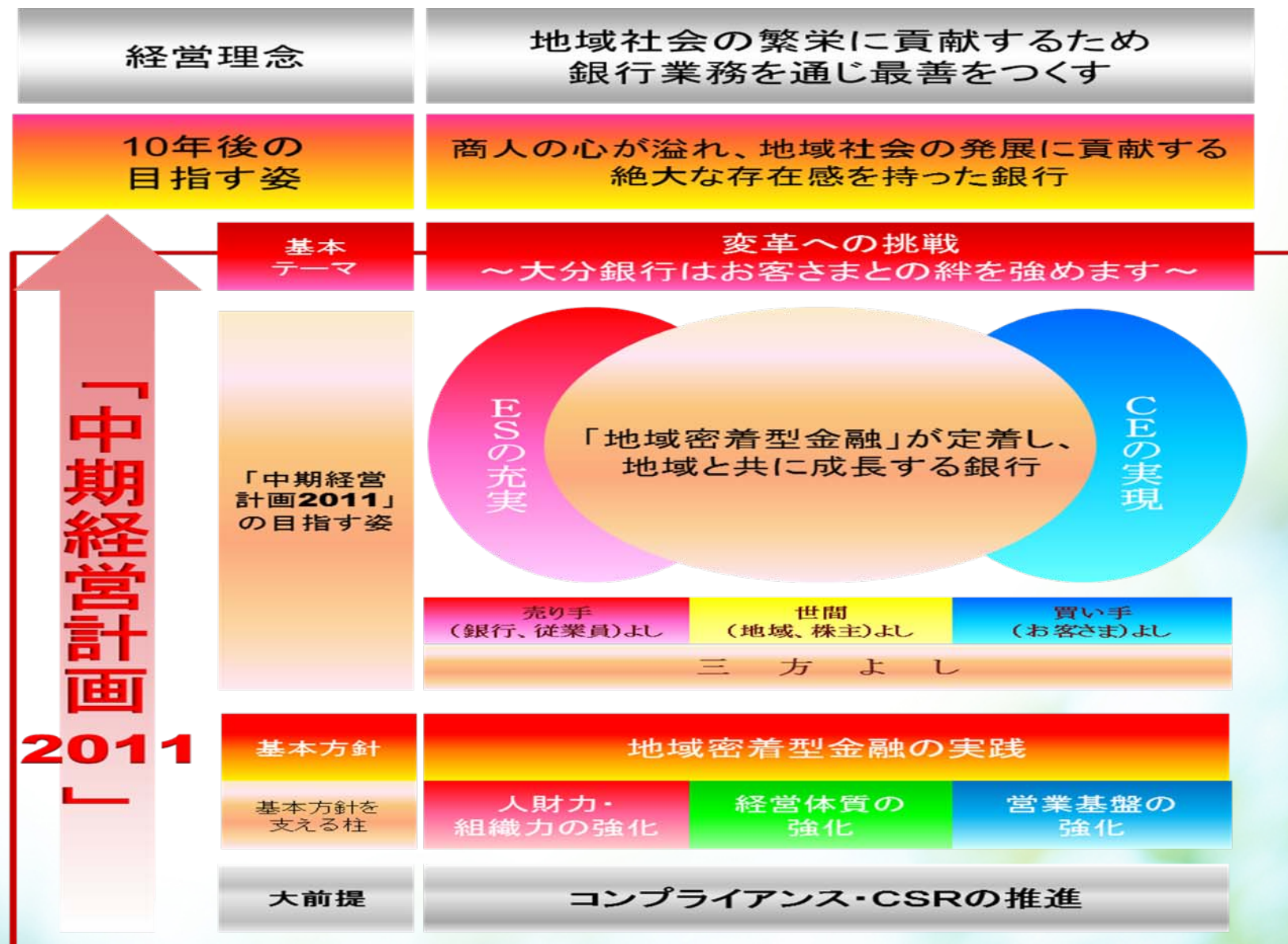
3 地域密着型金融

4 計数目標

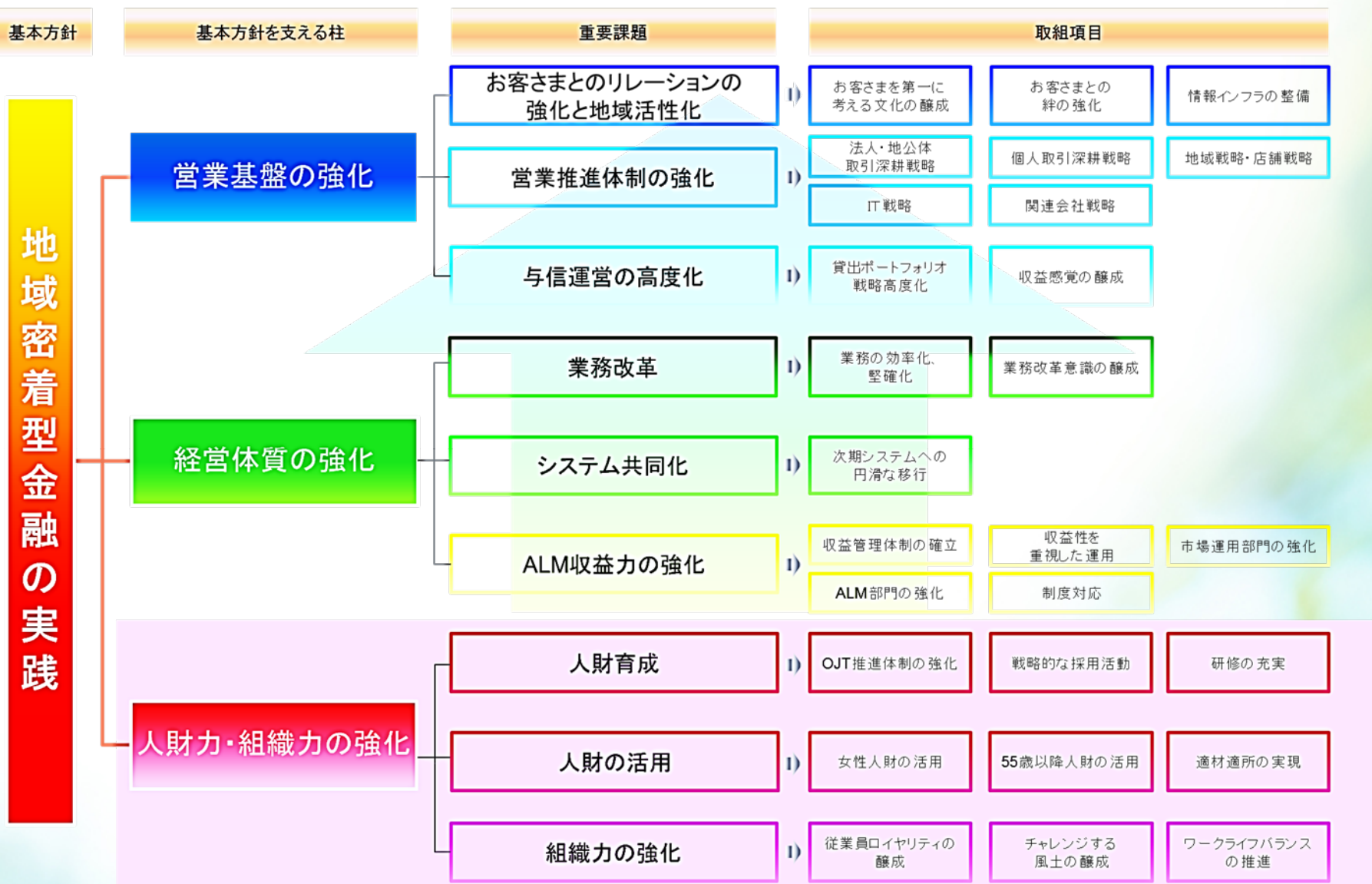
5 計数計画



1.「中期経営計画2011」の概要

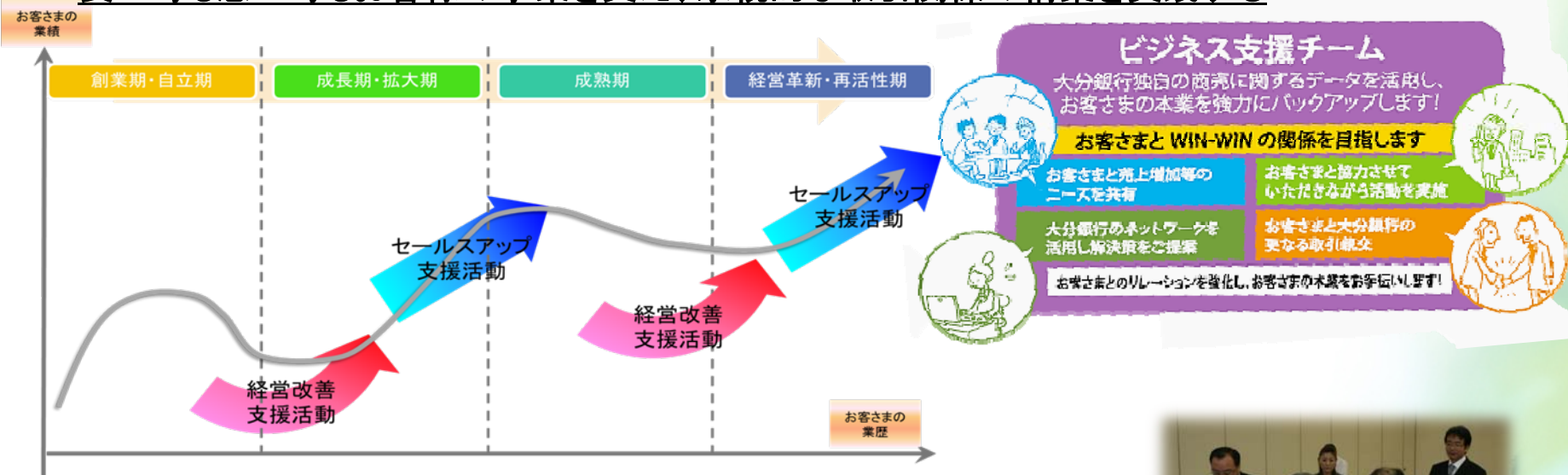


2.重点課題と取組み項目



3.地域密着型金融(中小企業成長支援策)

良い時も悪い時もお客様の事業を支え、永続的な取引関係の構築を実践する



<セールスアップ支援活動>: 中小企業の成長支援策

(1) H22年4月新設「ビジネス支援チーム」(専担者 当初6名⇒現在12名)

(2) 個別商談件数627件(うち商談成立件数:97件)

(3) 商談会の開催

- ① 商社との共催「食の商談会」実施 :15社参加
- ② 健康関連食品・雑貨企業との商談会:15社参加
- ③ 大手雑貨販売店との商談会:13社参加
- ④ 大手百貨店2社との商談会:14社参加
- ⑤ 製造業16社との商談会:56社参加



食の商談会

健康食品の商談会

製造業16社の商談会

3.地域密着型金融(中小企業活性化策)

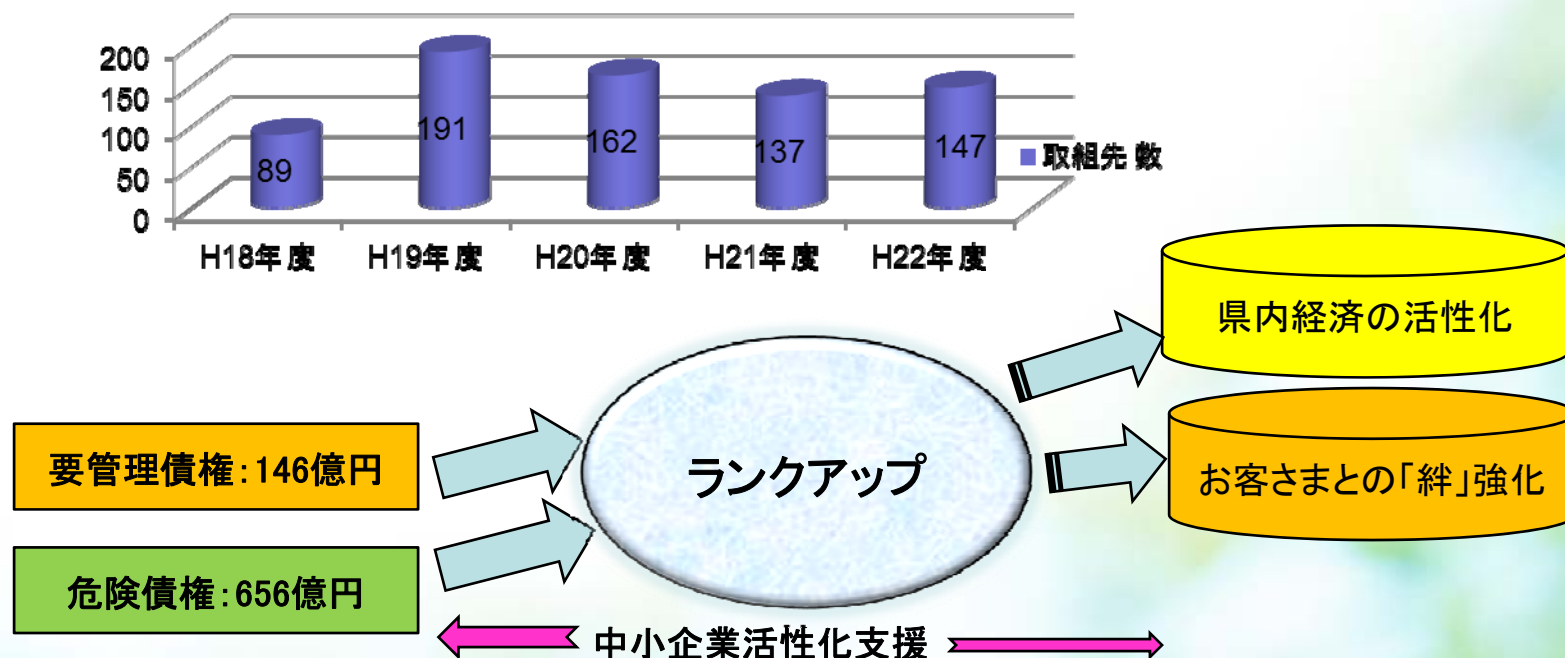
<経営改善支援活動> : 中小企業活性化支援⇒「企業サポートグループ」

(1)活動内容:専担者7名

- ①経営もしくは事業運営上の問題点の共有化
- ②問題点の解決策提案や比較優位にある点について強化を図るための具体的なスキーム策定支援
- ③経営改善計画の策定支援
- ④コンサルタント等外部専門家の紹介
- ⑤大分ベンチャーキャピタル(株)と連携し、経営改善計画策定支援・モニタリングの実施

*また(株)整理回収機構、大分県中小企業再生支援協議会、事業再生ADRの関与による事業再生にも取り組む。

(2)ランクアップ取組先数の状況



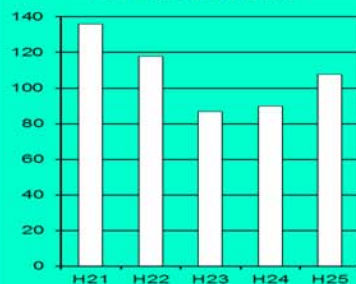
4.計数目標

収益性指標

コア業務純益
108億円

【コア業務純益】
一般貸倒引当金繰入前の
業務純益から債券関係損益を
控除し算出

コア業務純益



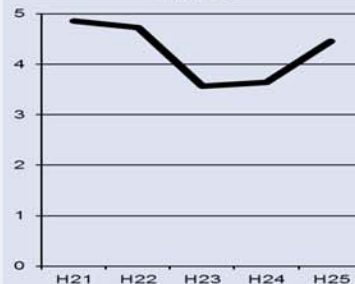
年度	H21	H22	H23	H24	H25
実績	実績	実績	目標	目標	目標
(億円)	136	126	87	90	108

地域密着型金融を実践することによって積み上げを図ります。

ROE
4.5%

$$\text{【ROE】} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{Tier1平残}} \times 100$$

ROE



年度	H21	H22	H23	H24	H25
実績	実績	実績	目標	目標	目標
(%)	4.9	5.2	3.6	3.6	4.5

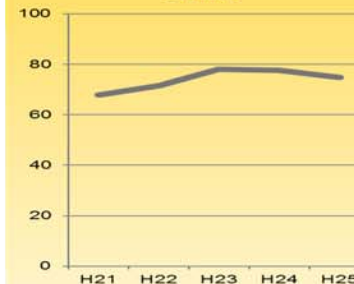
地域密着型金融の実践を通じ、増資により下落した当指標の強化を図ります。

効率性指標

OHR
74.8%

$$\text{【OHR】} = \frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}} \times 100$$

OHR



年度	H21	H22	H23	H24	H25
実績	実績	実績	目標	目標	目標
(%)	67.8	69.8	78.0	77.6	74.8

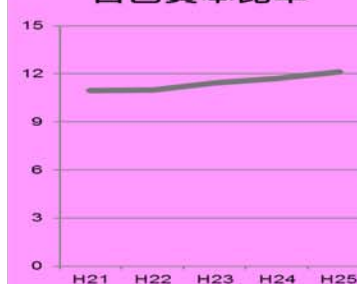
システム移行により物件費が増加する中、業務改革に取り組み、OHRの上昇幅の圧縮を図ります。

健全性指標

自己資本比率
12.1%

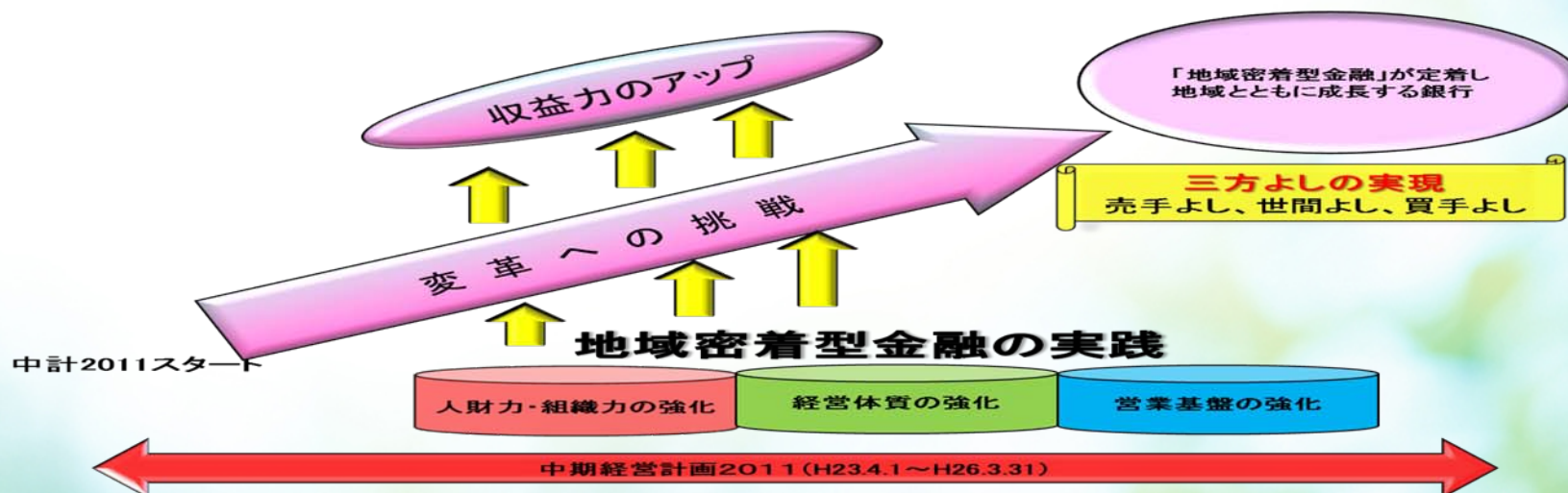
$$\text{【自己資本比率】} = \frac{\text{自己資本}}{\text{リスクアセット}} \times 100$$

自己資本比率



年度	H21	H22	H23	H24	H25
実績	実績	実績	目標	目標	目標
(%)	10.9	11.48	11.4	11.7	12.1

継続的な利益計上により強化していきます。



5.計数計画

← 「中期経営計画2011」 →

(単位: 億円、%)													
科目等				平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
				通期実績		通期実績		通期計画		通期計画		通期計画	
				平残	年率	平残	年率	平残	年率	平残	年率	平残	年率
総貸出金				16,637	1.6	16,893	1.5	16,399	▲ 2.9	15,998	▲ 2.4	15,805	▲ 1.2
一般貸出金				13,681	▲ 0.0	13,450	▲ 1.7	13,113	▲ 2.5	12,830	▲ 2.2	12,758	▲ 0.6
事業性貸出金				9,547	▲ 0.8	9,274	▲ 2.9	8,933	▲ 3.7	8,606	▲ 3.7	8,483	▲ 1.4
県内事業性				5,731	▲ 0.4	5,521	▲ 3.7	5,343	▲ 3.2	5,343	0.0	5,375	0.6
県外事業性				3,816	▲ 1.4	3,753	▲ 1.7	3,590	▲ 4.3	3,262	▲ 9.1	3,108	▲ 4.7
個人ローン				4,134	1.9	4,184	1.2	4,180	▲ 0.1	4,225	1.1	4,275	1.2
預金等				24,374	3.3	25,089	2.9	25,144	0.2	25,349	0.8	25,597	1.0
一般預金				21,219	2.1	21,598	1.8	21,870	1.3	22,184	1.4	22,504	1.4
法人預金				5,102	2.3	5,162	1.2	5,178	0.3	5,181	0.1	5,242	1.2
個人預金				16,118	2.0	16,436	2.0	16,692	1.6	17,003	1.9	17,262	1.5

VI. リスク・収益管理の状況

1 資本の活用状況

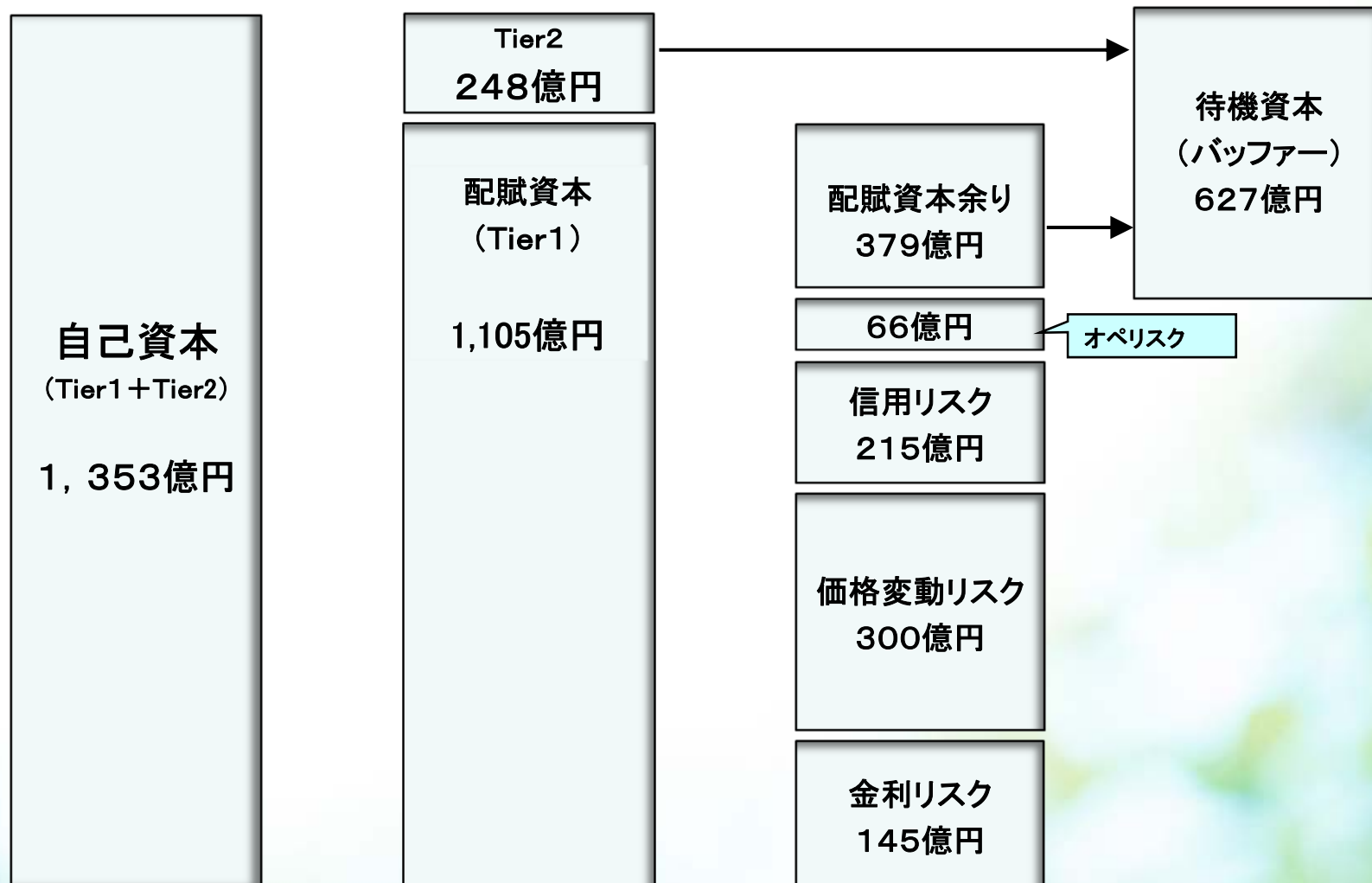
2 市場関連リスクの管理状況

3 配当政策



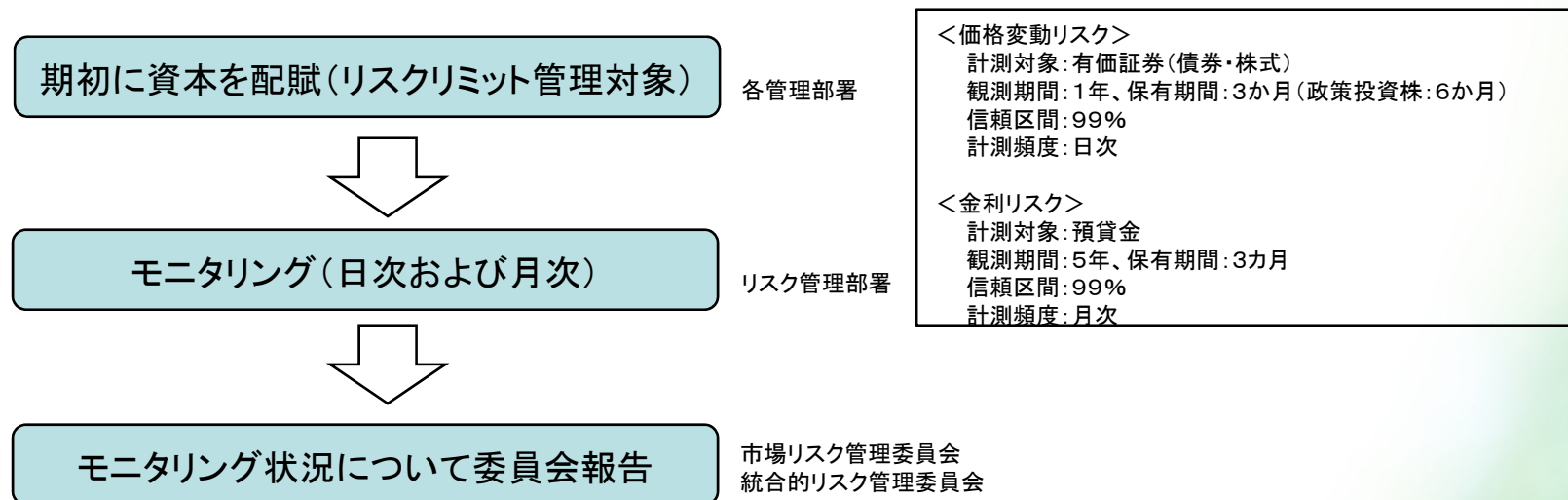
1. 資本の活用状況(平成23年3月末)

信用リスク	金利リスク	価格変動リスク	オペレーショナルリスク
保有期間1年 信頼区間99.9%	保有期間3カ月 信頼区間99%	保有期間6ヶ月(政策投資株) 保有期間3カ月(その他) 信頼区間99%	基礎的手法



2. 市場関連リスクの管理状況

市場リスク(価格変動リスク・金利リスク)



アウトライヤー基準(単体: バゼルⅡ)

(百万円)

	①損失額	②Tier I + Tier II	①÷②アウトライヤー比率
平成23年3月末基準	11, 127	135, 839	8. 190%

【前提条件】

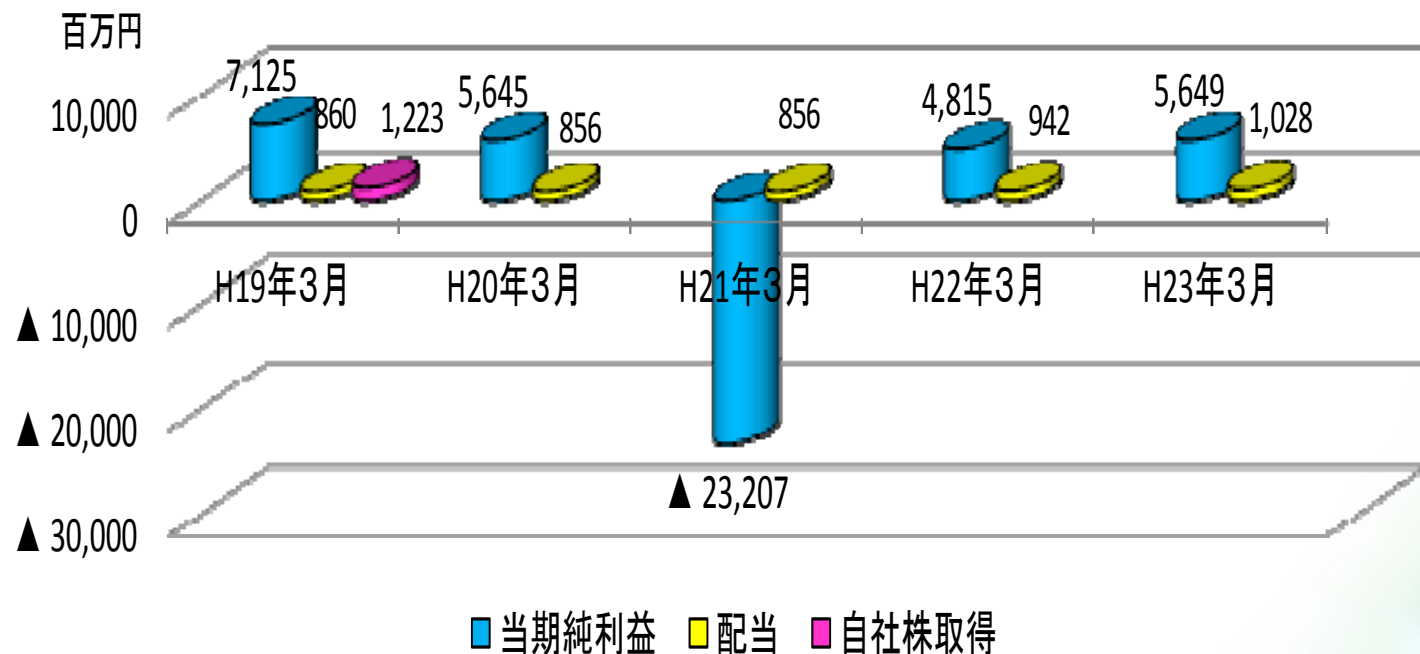
コア預金

平成23年3月末基準で、平均期間 2. 88年の取引として扱っております。
(コア預金は21年3月期より内部モデルを使用しています)

ストレス的な金利変動シナリオ

99%の信頼区間に相当する実際の変動データをストレス的な金利変動シナリオとしています。
(99%タイル値)(ドル・ユーロ金利については、200BPVにて計測)

3. 配当政策



株主還元率の推移				
19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期
29. 2%	15. 2%	▲3. 7%	19. 5%	18. 2%

* 当行は従業員福利厚生の一環として、ESOP信託をH22／11に導入。

H23年3月末 ESOP信託取得株式：766百万円は会計処理上、自社株として計上されますが、株主還元率には加味しておりません。

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであります。
将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社大分銀行 総合企画部 広報CSRグループ

担当：小野・幸

TEL：097-538-7617 FAX：097-538-7620

ホームページアドレス：<http://www.oitabank.co.jp/>

以上



地域をみつめ 未来をみつめ

大分銀行